



表彰台をめざして

名古屋工業大学フォーミュラプロジェクト
Nagoya Institute of Technology Formula Project
<http://www.qitc.nitech.ac.jp/formula/>



Presentation プレゼンテーション

マシン名：N.I.T.-12

今年度は総合成績で表彰台を獲得することを目標に活動を行ってきました。車両としては年々低速コーナーが増え、ストレートの割合が減少しているエンデュランスコースに合わせ、軽量で扱いやすく、低回転からのフラットなトルクを発揮する単気筒エンジンを、コンパクトで整備性、製作性に優れたスチールスペースフレームに搭載し、各所軽量のパーツを低位置に配置することで、小排気量のパワー不足を補うというコンセプトを引き継ぎました。特に軽量・低重心・低慣性を軸とし、車両の性能の向上をめざしました。また、昨年度大会でトラブルが発生し、アクセラレーション・スキッドパッド審査に参加できなかったことから、車両全体の信頼性の向上にも取り組みました。その中でも特に昨年まではエンジンの始動がスムーズにできなかった部分を解決し、スムーズに審査を行えるようになった部分は大きな進化でした。チームとしても、常に目標である表彰台をめざし活動できるようにスケジュールの管理方法を見直すなど、さまざまな取り組みを行うなどマネジメント面にも力を入れ、完成度の高い車両、表彰台を獲得できる強いチームづくりをめざしました。

Participation report 参戦レポート

初日に技術車検を受け、いくつかの指摘は受けましたがその日のうちに修正を行い、順調にその他の車検も合格していきました。静的審査では昨年度以上に時間をかけ、取り組んでいましたが、思ったように成績を伸ばすことはできませんでした。その間車両は大きな問題もなく、3日目の動的審査へと順調に進めました。アクセラレーション・スキッドパッドでは走行テストでの十分な走行練習を取れなかったような状況の中、ドライバーは冷静に走行し、アクセラレーションでは単気筒エンジン勢の中でトップのタイムで走行することが出来ました。次のオートクロス審査では、降雨の心配もありましたが、車両の性能をドライバーが存分に発揮し、全体で2位を獲得することができました。しかし、ふたりのドライバー出走前にエンジンにトラブルが発生し走行することができませんでした。修正が不可能だったため、エンジンを載せ替える大きな変更となりましたが、翌日の午前中には修正が完了し、最終日のエンデュランスまで余裕を持って最終調整をすることができました。エンデュランス審査ではふたりのドライバーが順調に走行を重ねましたが、最終周にエンジンの点火系のトラブルが発生し、エンジンがストールする直前でしたが、なんとか完走することができ、2年連続のエンデュランス完走となりました。最終的には5つの表彰を頂き、チーム過去最高得点を記録しましたが、惜しくも表彰台には届かず、総合7位となりました。昨年度よりも順位を上げることができ嬉しくはありますが、目標を達成することができなかったことが悔しくもあります。来年度こそは表彰台を獲得できるよう、さらに強いチームをめざします。



今回の総合結果・部門賞

- 総合7位 ●日本自動車工業会会長賞
- オートクロス賞2位 ●省エネ賞2位
- 最軽量化賞 (ICVクラス) 2位
- パワートレイン賞2位

Profile チーム紹介・今までの活動

名古屋工業大学フォーミュラプロジェクトは、ものづくりテクノセンターの教育プロジェクトとして、初年度より学生フォーミュラ大会に参加しています

Team-member チームメンバー

澤木 勇佑 (CP)
北村 憲彦 (FA)、石野 洋二郎 (FA)、
早川 伸哉 (FA)、遠藤 晃慶、坂井 碧海、
童銅 泰良、三島 俊彦、金森 稜平、中川 律果、
永瀬 公博、中村 大、前田 真吾、松本 佳樹、
熊野 聖人、小林 祐大、佐橋 えりな、高居 京平、
田畑 まどか、富田 崇史、松山 大地、渡部 拓、
渡辺 猛史

Sponsors スポンサーリスト

アスプロス、アクセル、イシカワ、青山製作所、
出光興産、岩倉ラヂエター商会、NTN、協和精巧、
呉工業、サクラ工業、信濃機販、シングルハート、
スズキ、住友電装、積水化成工業、大同メタル工業、
中央発條、デイトナ、THK、東日製作所、日新鋼管、
ファイベックス、日東紡績、ブレニー技研、ミスミ、ミックニ、
名東歯車、ヤマハ発動機、他47社